

“カイシャ” じゃなくて “コープ” で働く。



生活協同組合 **コープいしかわ**

COOP ISHIKAWA CORPORATE PROFILE



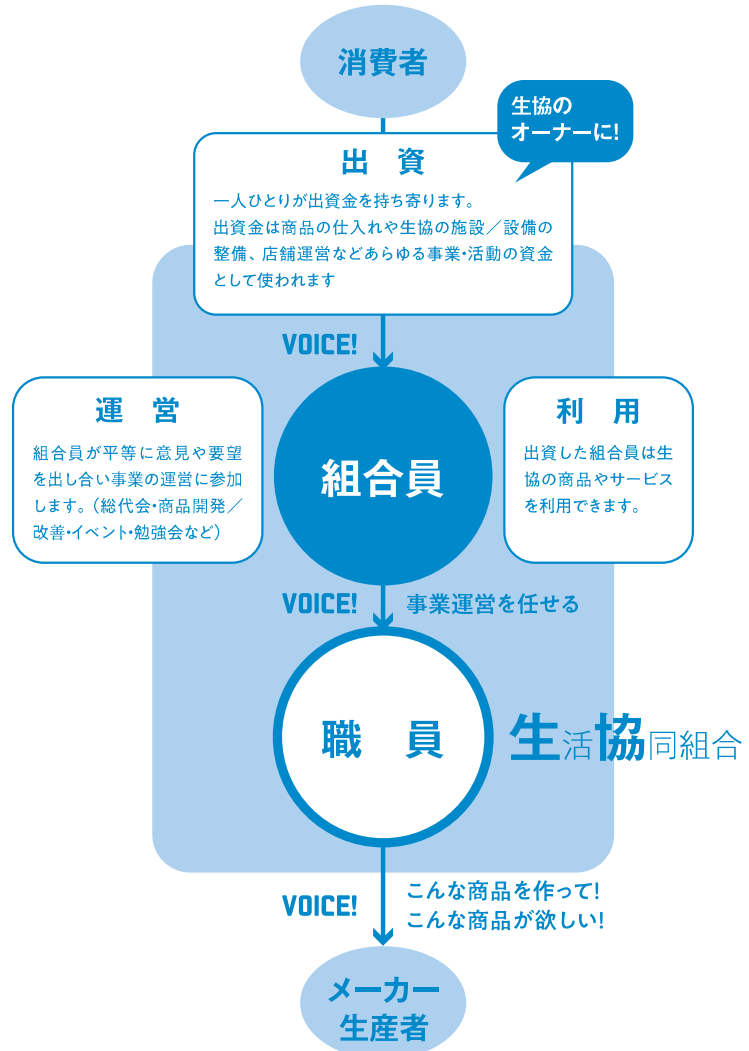
みつけよう。コープだからできる、生き方・働き方。

コープっていったい何だろう？

1 「くらしの願い」を実現する組織

「コープ」は「生活協同組合(生協)」のこと。生協は消費者が出資をして「組合員」となり、組合員一人ひとりが平等に意見を出し合って組織を運営し、組合員みんなで生協の商品やサービスを利用する、非営利の組織。剰余金(利益)があれば組合員に分配することも生協の特徴です。

組合員が出資するのは「家族のために安全でおいしい食材がほしい」「ライフステージに応じた保障を安価で」「子どもに食べる大切さを教えたい」「介護について相談できる仲間がいたら」といった「くらしの願い」を実現するため。この「くらしの願い」を組合員とともに実現していくことをめざし、組合員から任せられ事業を担っているのが生協の職員です。つまり、生協は組合員が主役の組織なのです。



2 日本最大の消費者組織に成長

協同組合が誕生したのは、19世紀のイギリスです。産業革命により生産力が飛躍的にアップした一方で、混ぜ物の入った商品や目方が足りない商品が高値で流通するなど、人々は苦しい生活をしていました。そんな問題を解決するため、人々が少しずつお金を出し合い、品質の確かな商品を適正な価格で販売するお店を自分たちで開きました。これが生活協同組合の礎となる協同組合のはじまりです。

そして20世紀初頭、日本でも現代につながる生活協同組合が誕生しました。それからおよそ100年。「地域生協」「大学生協」「医療生協」「共済生協」などの生協が日本各地に設立され、組合員の「くらしの願い」を実現するために宅配や店舗、福祉、共済など多様な分野で事業を展開しています。日本最大の消費者組織となった日本生活協同組合連合会には300を超える生協が加入し、組合員総数は約2,998万人、総事業高は約3.8兆円、世帯加入率は全世帯の約39%と、生活品の流通においては日本でも有数の事業体へと、生協は成長を遂げています。

日本は今、少子高齢化・人口減少がもたらす様々な社会的課題に直面しています。世界に目を向ければ、地球温暖化や貧困、平和問題など数多くの課題があります。これまで互いが助けあって事業や活動を進めてきた生協は、これからくらしや社会の課題について組合員とともに考え、行政や地域の人々と協力・連携し、「くらしの願い」の実現に向けて取り組み続けます。

コープいしかわとは？

コープいしかわの理念とビジョン

理念

わたしたちは、ひとと自然を大切に、人間らしい豊かな暮らしと持続可能な社会を、協同して創ります。

2030年ビジョン

育むつながりから、笑顔ひろがるCO・OP

3 いま、コープいしかわは

石川県では1960年代から70年代にかけ七尾・小松・石川の3生協が相次いで設立。これらが2000年3月に合併し「コープいしかわ」が誕生しました。コープいしかわは現在、組合員数約16万人を数え、世帯加入率は石川県全体の約34%に上る組織となっています。

いまコープいしかわは、「宅配」「店舗」「共済」「福祉」という4つの事業を中心に、多様な分野へと活動の範囲を広げています。例えば夕食宅配、買い物支援、地域の見守り——。石川県に密着し一人ひとりの組合員の暮らしに寄り添っているコープいしかわだからこそできる取り組みを、これからも組合員とともに進めていきます。

コープいしかわでは、職員全体集会や部内報などを通じて、先輩や後輩、入協歴、部署の垣根を越え、「できている職員」の事例を全職員が共有するなどの活動を展開。職員同士が学び合い支え合って成長できる組織運営を行っています。この取り組みにより、組合員と接する職員はもちろんのこと、本部勤務の職員も、組合員の「現実」や「暮らしへの想い」をリアルに感じ取ることができ、他の職員の仕事に対する姿勢や工夫、さまざまな気づき・学びを共有できるのです。

すべての職員が平等に、部門を越えて交流し、組合員とともに学び合いながら自分を成長させていける——そんな生き方・働き方が、コープいしかわには息づいています。

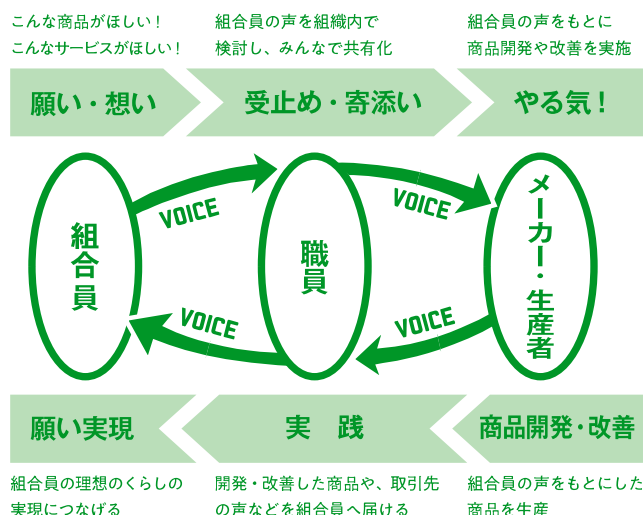
5 コープいしかわの組織づくり

4 組合員とともに運営する組織

コープいしかわの約16万人の組合員は、生協にとって商品やサービスを提供する単なる「お客様」ではなく、生協の「オーナー」です。

コープいしかわでは、組合員の「暮らしの願い」の実現のために、組合員の声を集め、広げ、循環し、組合員が互いに学び合っていける仕組みをつくっています。事業を通じたコミュニケーションで、職員は組合員の何気ないつぶやきや新しいレシピなどのアイデア、切実な要望まで、さまざまな「声」を耳にします。職員によって受けとめられた「組合員の声」は、上司や職場のメンバーだけでなく、生協全体で共有されます。さらに、取引先（メーカーや生産者）や他の組合員にもその「声」は届けられ、商品の開発や改善、新たな事業開発などに反映されていくのです。

“声の循環”の取り組み



どんな仕事があるんだろう？ コープいしかわの仕事とキャリアパス。



多くの人と関わる中で、
日々、成長が実感できる。

入協1年目

配送スタッフ

北角 偉多

2021年入協

■ 今の仕事は？

組合員さんがカタログで注文した商品をお届けする仕事です。この時、商品のことや生活のこと、いろんな話をしますし、商品を提案したり、新しい組合員さんを増やす取り組みも行います。最初はうまく話ができるか不安もありましたが、毎週決まった組合員さんとお会いする中で、商品の話題をきっかけに自然と親しくなりました。今では毎回話が弾む組合員さんもいて、美味しい商品やアレンジレシピを教えてもらうこともあります。

■ 仕事のやりがい、どんなところで感じますか？

この仕事の魅力は、日々いろいろな人と出会えることです。おすすめした商品を喜んでもらえたり、配送のスピードが速くなったことを褒められたり、一日一日、自分の成長が実感できます。名前を憶えてくれて「北角さん」と呼んでもらえるのも本当にうれしい。もっとがんばろうという気力がわいてきます。これだけ地域の人と密接に関わる仕事は他にはないと思います。

■ 職場の雰囲気は？

みんな仲がよくて、とにかく明るい！わからないことがあれば同僚や先輩などに気軽に相談できますし、こちらの様子を見て声をかけてくれたり、フォローしてくれたりもします。運転の講習があるなど、教育面のサポートも万全です。

子育て中も安心してキャリアを
重ねられる気づかい、
思いやりのある職場。

入協8年目

くらしのサポーター

角 芽衣

2014年入協



■ 入協後のキャリアは？

配送スタッフを2年務めた後、くらしのサポーターやコールセンター勤務を経験。その間、3回の産休育休を取得しました。妊娠中は身体の負担が少ない部門へ異動させてもらい、休業中も部内報が届いたり、担当職員から連絡をもらったり、復帰後は時短勤務ができたりと、心強いサポートがあります。職場の皆さんも応援してくれて、子育て中もキャリアが積み重ねられる恵まれた環境です。

現在は、赤ちゃんが生まれた家庭へ贈る「はじめてばこ」のお届けに携わっています。「はじめてばこ」は皆さん楽しみにされていて、お渡しすると、とても喜んでくれます。幸せな時間が共有できて、私もうれしい気持ちになります。

■ 仕事を通して成長できたと思うことは？

コールセンター勤務では、組合員さんや消費者の方からのさまざまな問い合わせに答えるため、これまで経験してきた宅配だけではなく、店舗や共済、福祉、組合員活動などコープいしかわに関するすべての知識を身につけるように努力してきました。当時の経験を生かし、相手の立場になって考えて、正確に対応するように心がけています。

■ コープいしかわの魅力とは？

組合員さんに寄り添い、地域に役立つ存在であるということです。配送スタッフには地域の見守り隊の役割もあります。だからこそ、地域の人たちに受け入れられ、認められているのだと思います。



組合員さんの声を生かして、
店舗開発も「生協オリジナル」。

入協14年目 店舗事業運営部マネジャー

勝木 健悟

2008年入協

■ 入協後のキャリアは？

5年間にわたり配送スタッフを経験した後、店舗配属となり畜産品を担当しました。8年目で副店長として新店舗のオープニングに参画した後、乳製品やチルド品など「日配品」のバイヤーを経て、現在は店舗事業運営部のマネジャーをしています。

店舗事業運営部では、店舗の運営のほか、商品の管理、販売促進も担っており、人材の育成にも力を入れています。バイヤーの頃より仕事のフィールドが広がり、責任のある仕事を任せられるようになりました。

■ バイヤーの仕事について教えてください。

ナショナルブランドのメーカーや地元の中小メーカー、CO-OP

ブランドなどの商品を仕入れて、売場をつくります。来店客の属性や好み、季節、新発売の商品などの動きを見ながらバイイングします。空間の演出、計画が成功に結びつくと達成感があります。

■ 組合員さんと一緒に店づくりもしたとか？

生協の場合、新店オープン時には組合員さんも店づくりに参加します。一緒にいろいろなスーパーを見てまわり、意見を聞き、設計に取り入れていきました。利用者目線で意見がもらえるのは生協ならではです。店には組合員さんや地元の町内会が利用できるコミュニティスペースを確保するなど、組合員や地域住民と共生する店舗づくりを行っており、生協の独自性はそんなところにも現れています。

地域の人々とともに生きる。
そこに働く喜びがある。

入協21年目 総合企画部マネジャー

佐々木 智一

2001年入協



■ 総合企画部とは？

本部にある部署のひとつで、総代会や理事会の事務局、経営全般にかかわる企画、広報、行政への窓口などの業務を担当しています。

■ 入協後のキャリアは？

配送スタッフを4年間経験した後、配送リーダーを5年経験。9年間にわたって、組合員さんと接する仕事をしてきました。その後、配送センターの副センター長として2年間、広報を2年間、センター長を3年務めた後、現職に就きました。コープいしかわの仕事の出発点は配送業務。ここで組合員さんの声を受け止める。そ

れがすべての仕事の原点となっています。

■ 生協での働きがいとは？

「生協は地域のコミュニティの一端を担っている」ということ。商品をお届けに行ったとき、トラックを囲み組合員さんが集まる。そこに会話が生まれ、人と人とのつながりが生まれる。コープいしかわでは今、宅配事業のネットワークを生かし、自治体などと連携し「地域の見守り活動」にも取り組んでいます。仕事を通じて、地域や人々とつながりを強め信頼関係や安心を一緒に育んでいく。生協で働くことの喜びは、そんなところにもあるのではないのでしょうか。

コープいしかわの事業

■ 宅配事業

カタログで注文いただいた商品を、週に1回決まった曜日にお届けします。生活スタイルに合わせ、「班(グループ)宅配」と個人別にお届けする「コープ宅配」を行っています。2011年からは、配食サービス(夕食宅配、健康介護食、健康管理食)も行っています。



■ 店舗事業

スーパーマーケットを金沢市内に2店舗展開。地場商品や生鮮品に力を入れ、普段のくらしに役立ち、くらしの発見がある店舗をめざしています。また、移動スーパー「コポ丸便」や買い物代行サービス「コープいじ〜便」にて買い物支援にも取り組んでいます。



■ 共済・保険事業

コープ共済は、ケガや病気、災害など、くらしの中で困ったことが起きたときに、みんなで支え合い助け合うことを目的とした保障商品。組合員さんの声を大切にし、より良い商品に育ててきました。

■ 福祉事業

2006年に訪問介護事業をスタート。その後、通所介護、居宅介護支援、認知症対応型グループホームを開設。介護についての相談やケアプランの作成にも応じています。

組合員活動

コープいしかわでは、職員が組合員をサポートし、組合員を中心とした活動を行っています。



コープ農園「小麦コース」 収穫体験



サタデー とうもろこし狩り



クリーン・ビーチいしかわへの協賛・参加



地域に貢献する活動を行う団体へ助成



産地・工場見学「ぶどう狩り」



ユニセフ「外国のコイン仕分け」



石川県内で誕生した赤ちゃんへのさまざまな企業からの贈りもの「はじめてばこ」に特別協賛



移動スーパー「コポ丸便」にて買い物支援

社会貢献活動

地域の見守りや買い物支援、被災地・災害時支援など、地域社会の発展に貢献することを目指した多様な活動を行っています。

事業所一覧

本部 〒920-2148 白山市行町(あるきまち)西1番地 TEL 076-275-7575(代表) FAX 076-275-9950

配送

のと北部センター 鳳珠郡穴水町緑ヶ丘911-1
のとセンター 七尾市東三階町マ32番3
湊センター 金沢市湊2丁目7番1
古府センター 金沢市古府2丁目189
鶴来センター 白山市行町西1番地
小松センター 小松市矢崎町丙15番1
加賀センター 加賀市上河崎町288

物流

物流センター 白山市行町西1番地

店舗

コープたまぼこ 金沢市玉鉾1丁目180番地
コープおおぬか 金沢市大額2丁目50番地
コープこまつ 小松市白江町(2022年開店予定)

福祉

ケアセンター金沢 金沢市入江2丁目384番地
ケアセンター戸板 金沢市戸板2丁目73番地

グループ会社

(有)協同サービス石川 白山市行町西1番地
株式会社コープいしかわ



HP



Facebook



Instagram

